

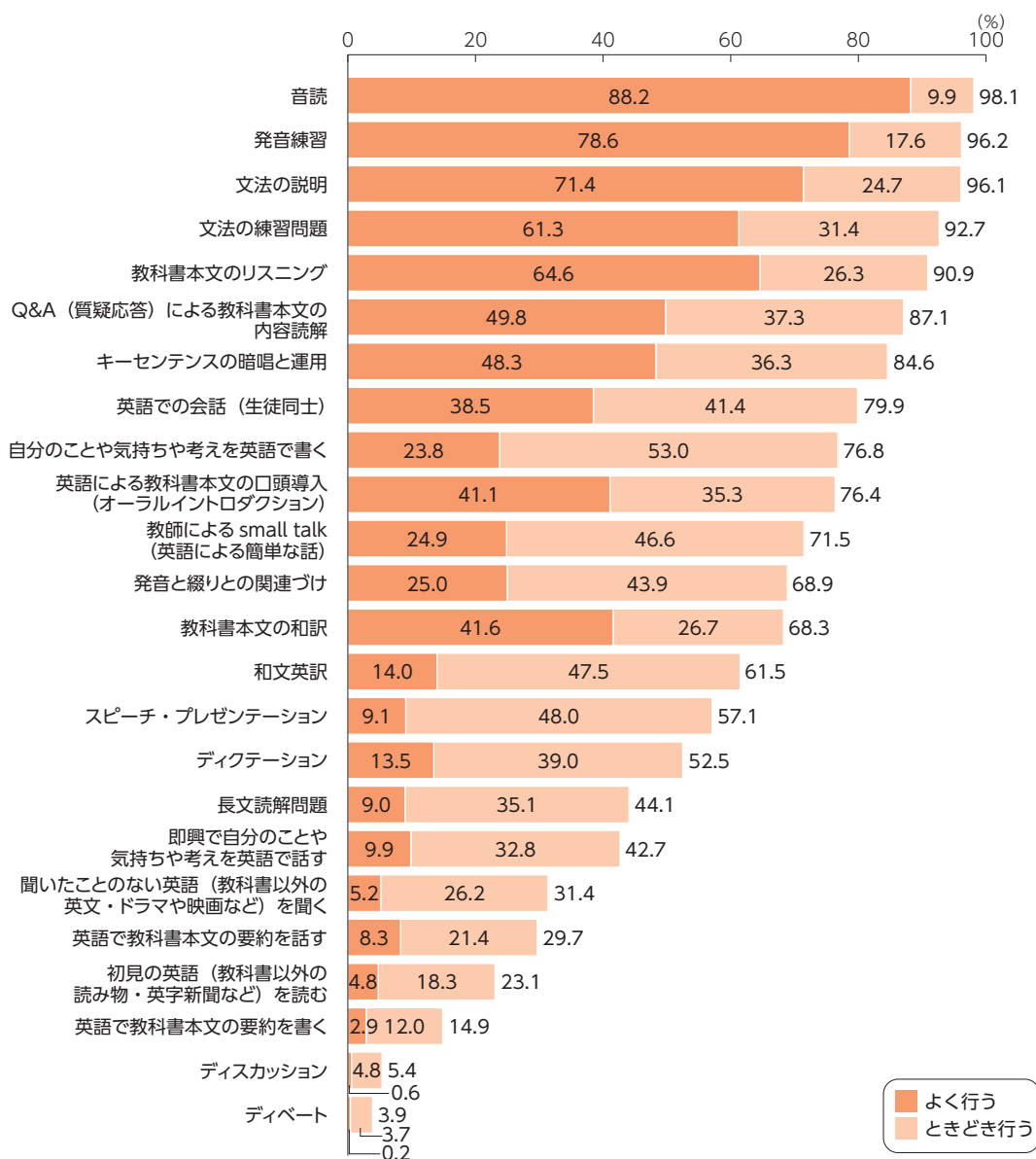
1. 指導の実態

中学校の授業では、音声・文法指導や「聞く」「読む」活動が中心。「話す」「書く」活動も多少行っている。

中学校の指導方法・活動内容は、「音読」「発音練習」「文法の説明」「教科書本文のリスニング」などが9割（「よく行う」+「ときどき行う」の%、以下同）を超え、音声を中心とした指導や文法指導が多い。高校に比べ、「自分のことや気持ちや考えを英語で書く」「英語での会話（生徒同士）」「スピーチ・プレゼンテーション」は特に多い。

Q 授業において、次のようなことをどのくらい行いますか。

図1-1 指導方法・活動内容（中学校）



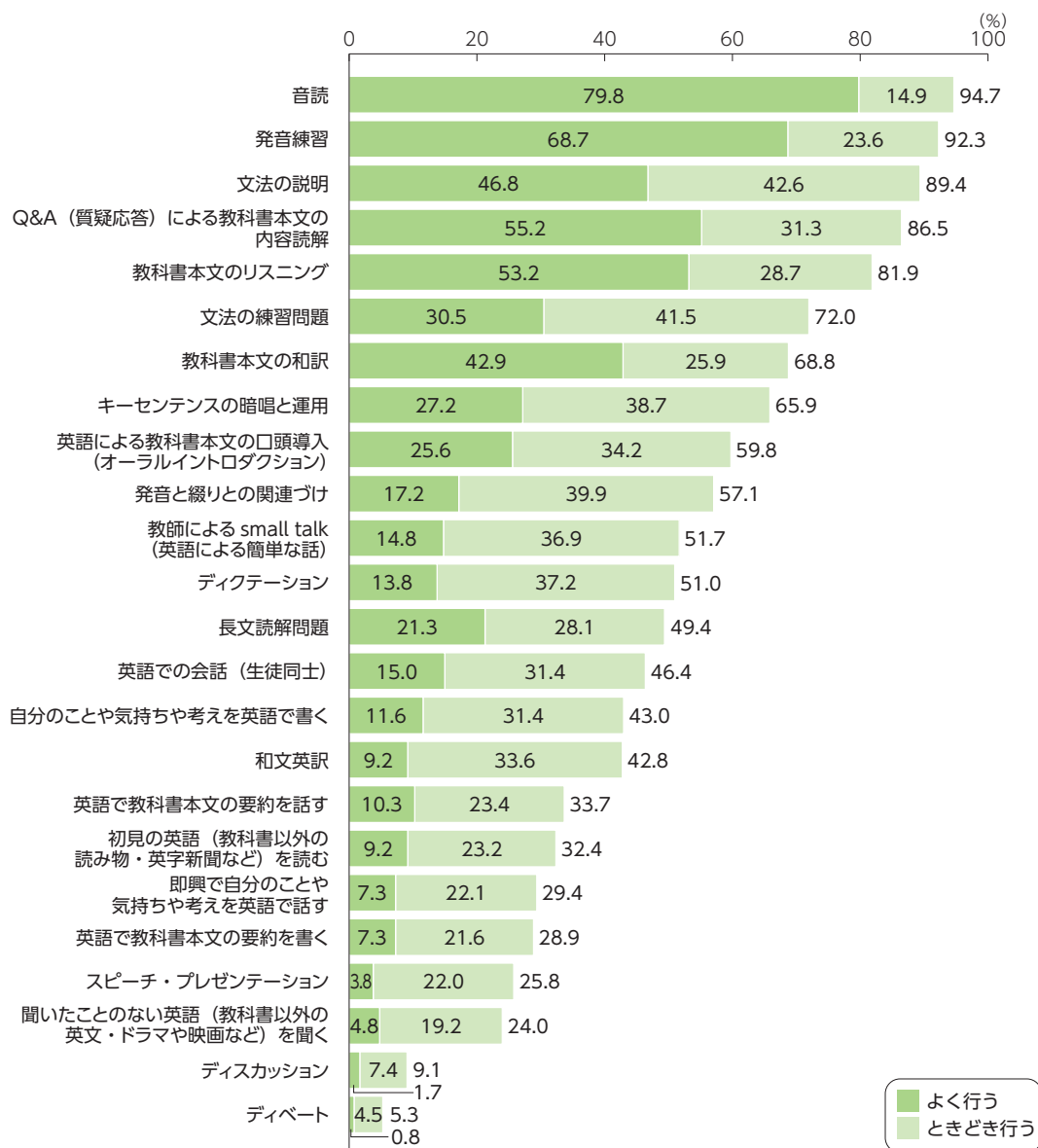
*各横棒の外側にある数値は「よく行う」+「ときどき行う」の%。

高校の授業でも、音声・文法指導が中心。「話す」「書く」活動が少ない。

高校の指導方法・活動内容は、中学校と同様に「音読」「発音練習」「文法の説明」が多い。それに対して、「自分のことや気持ちや考えを英語で書く」「英語で教科書本文の要約を話す」「即興で自分のことや気持ちや考えを英語で話す」「英語で教科書本文の要約を書く」などの「話す」「書く」活動の実施率は低く、特に「ディスカッション」「ディベート」は1割未満と低い。

Q 授業において、次のようなことをどのくらい行いますか。

図1-2 指導方法・活動内容(高校)



*各横棒の外側にある数値は「よく行う」+「ときどき行う」の%。

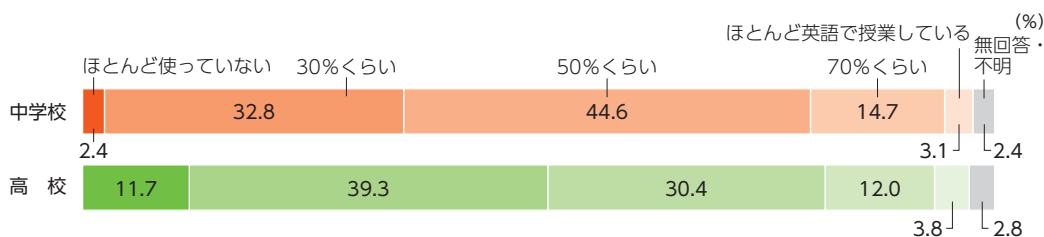
1. 指導の実態

授業で英語を半分以上使っている割合は、中学校6割、高校5割弱。

教員が英語を半分以上使って授業を進めている割合は、中学校が6割、高校が5割弱である。実際の英語の使用場面は、「生徒への指示」「褒め・励まし」「生徒とのQ&A」などが7割を超えている。英語使用場面のうち、上位4つは中高の差が大きく、中学校の方が多い。

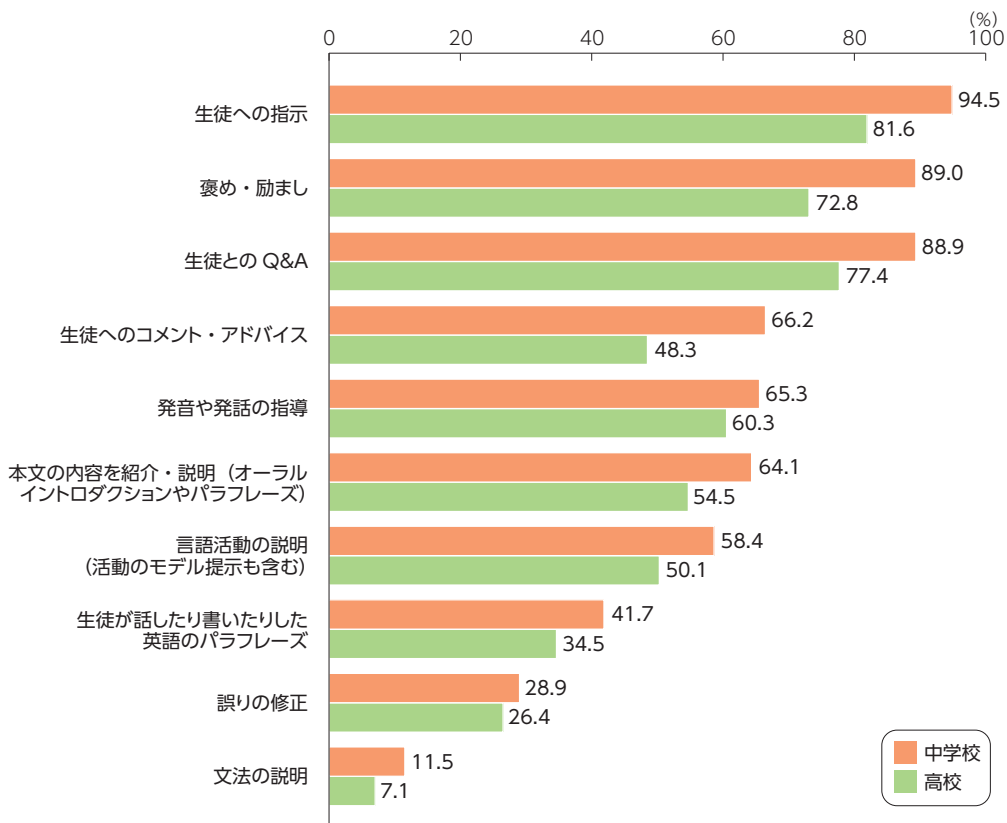
Q ふだんの授業において、あなたが英語をご使用になる割合はどのくらいですか。

図1-3 授業での英語の使用割合



Q ふだんの授業において、次のような場面で英語を使いますか。

図1-4 授業での英語使用場面



*「よく使う」+「まあ使う」の%。

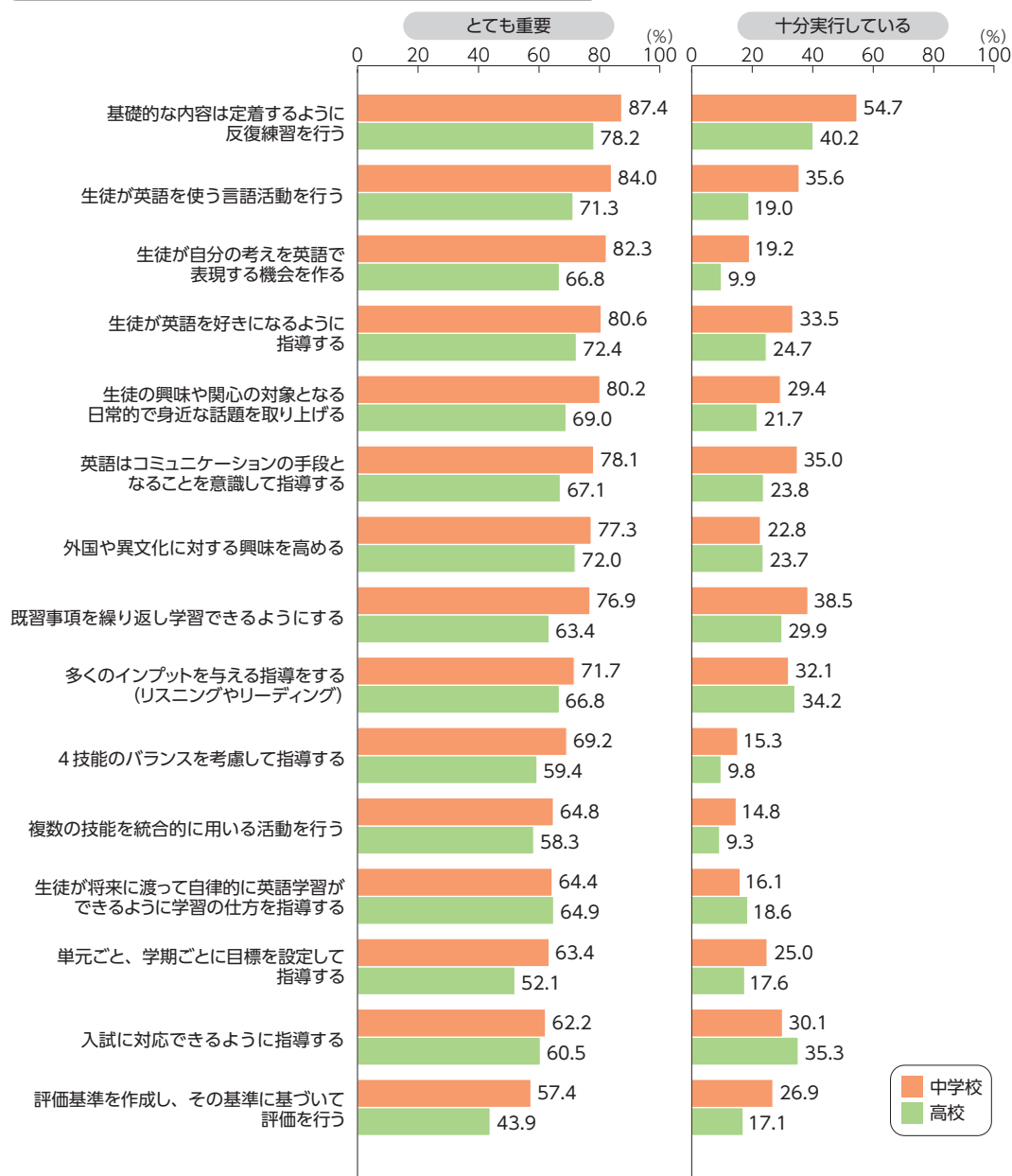
「生徒が自分の考えを英語で表現する機会を作る」ことは、重要だと感じつつも、実行している教員は少ない。

指導において、重要だと思うこととその実行についてのギャップ（「とても重要」－「十分実行している」）をみた。「生徒が自分の考えを英語で表現する機会を作る」「4技能のバランスを考慮して指導する」ことなどで大きなギャップがあった。重要だと思いつつも十分に実行できていないことがわかる。



英語を指導する際、次のことはどれくらい重要だと思いますか。また、それぞれについてあなた自身はどの程度実行していますか。

図1-5 とても重要だと思うこと／十分実行していること



1. 指導の実態

授業の振り返りでは、ほとんどの教員が「生徒の状況を見て授業内容を改善する」と回答。

授業の振り返りについて、ほとんどの教員が「生徒の状況を見て授業内容を改善する」と回答している。「振り返りのメモやノートをつける」「研修会などで自分の授業を見てもらい、意見をもらう」は中学校で特に高い。

Q 次のような授業の振り返りをどれくらいしていますか。

図1-6 授業の振り返り

